

音楽文化学科 音楽文化専修

【アドミッション・ポリシー】

■音楽文化専修の目的

音楽文化専修では、音楽に対する愛と探究心を持ち、特に、音楽創作、音楽研究、音楽教育の領域における幅広い専門知識と豊かな思考力、実践力によって、地域社会および国際社会の発展に貢献することのできる人の育成を目的としています。

■求める学生像

上記の目的に沿って、以下のような学生を求めます。

- ・音楽を愛し、なかでも西洋音楽に関する基本的な知識を持っている人。
- ・作曲ないしデジタル鍵盤楽器による演奏・創作への強い関心と意欲があり、また、それらに関する一定程度以上の経験を持つ人。
- ・様々な音楽やそれを取り巻く音楽文化について強い好奇心と探究心を持ち、かつ、自ら積極的に考え、また調べつつ学んでいくことに意欲のある学生。また、特に宗教音楽について強い関心を持つ人。
- ・音楽教育について関心を持つ学生。またとりわけ、将来、学校の音楽教員を強く志す人。

【カリキュラム・ポリシー】

■研究・指導の体制

音楽文化専修の指導は、作曲、デジタル鍵盤楽器、音楽学、宗教音楽学、音楽教育学などを専門分野とする教員によって行われます。個人レッスンおよび特殊講義は基本的に一人の教員によって指導・教授が行われますが、3年次と4年次の演習では、複数の教員が関わることで、多角的な視点からのアドバイスができる体制で行います。

■教育内容および教育方法の特色

音楽文化専修では、1年次には全員共通で音楽研究、音楽創作、音楽教育に関する概論を学びます。そのうえで、2年次からは、各自の関心に応じて3つの領域（音楽創作領域、音楽研究領域、音楽教育領域）から1領域を選択し、それぞれのコアとなる科目を必修として学ぶことで、専門性を深めていきます。3年次と4年次には3領域合同での演習が行われ、それによって、自ら主体的に考える力、分析的、発展的に問題を追究する力、プレゼンテーションおよびディスカッションの力を培います。4年次にまとめる卒業研究では、自らが調べ、考察したことを論理的に記述していく力を養います。

なお、作曲ないしデジタル鍵盤楽器を専門とする音楽創作領域の学生は言うまでもなく、音楽研究領域、音楽教育領域の学生においても、しっかりととした実技レッスンを受けながら、そこで得た経験を演習での研究に有機的に関連付けていくことができます。

学生各自の関心に応じて、より幅広い音楽知識と教養を身につけられるよう、他領域ないし他専修、他学科の専門科目についても選択履修することのできる枠を設けていることも特色です。

【ディプロマ・ポリシー】

■卒業時までに期待する学修の内容

エリザベト音楽大学での4年間の学びによって、「教養・実力・慈愛のある音楽家」としての資質を身につけていることが期待されます。さらに、音楽文化専修各領域の専門的な学びとして、音楽創作領域の学生においては、自らの抱くイメージを追い求めて適切に作品化し、演奏することのできる力、音楽研究領域の学生においては、テーマを深く掘りさげて調べ、自ら考察する力、音楽教育領域の学生においては、音楽教育の意義と様々なあり方についての深い知識と考察力、実践力を身につけていることが期待されます。

■学位授与の基準

卒業時に以下の資質を有することを目標として、所定の単位を修めた学生は卒業が認定され、学士（音楽）の学位が授与されます。

- ・音楽を深く愛し、「美」の追求につねに真摯であること。
- ・音楽および音楽文化に関する、広い専門的知識と理解力・実践力を持っていること。
- ・卒業演習および卒業研究をとおして、論理的な思考力と分析力、また自らの考察を的確に他者に伝えることのできる力を身につけていること。

音楽文化学科 幼児音楽教育専修

【アドミッション・ポリシー】

■幼児音楽教育専修の目的

幼児音楽教育専修は、音楽大学の中に設置された幼稚園教諭免許課程です。その特長を活かし、自らの“音楽するわざと心”を鍛錬するとともに、幼児教育の基礎的理論や保育内容について学ぶことをとおして、音楽を中心としながら幼児の全人的な発達を援助できる保育者を育てることを目的としています。

■求める学生像

上記の目的に沿って、以下のような学生を求めます。

- ・音楽および音楽的な文化・社会活動に関する興味と経験があり、音楽文化および音楽芸術を理論と技能の両面から、真摯に追及することができる人。
- ・幼児に対する関心、幼児教育の重要性に対する認識を持ち、自らの音楽的素養と技術を保育活動に活かして保育者として活躍することを目指したいという意欲のある人。

【カリキュラム・ポリシー】

■研究・指導の体制

上記の目的を実現するために、幼児教育に関する理論的な学修と、幼児の音楽活動に関する実技、および様々な楽器の専門的な演奏技術など技能面から学生を指導し、学びをサポートしています。少人数授業による、一人ひとりに合ったきめ細やかな指導を行います。

■教育内容および教育方法の特色

アドミッション・ポリシーに基づき編成する本専修のカリキュラムは、幼児・音・あそびの関連を体系的に教育的な側面から探究することを特長としています。また、幼児教育の考え方の一つとして「モンテッソーリ教育法」を体系的に学び、最終学年では「卒業演習」および「卒業研究」をとおして大学での学修のまとめをします。

【ディプロマ・ポリシー】

■卒業時までに期待する学修の内容

幼児の発達、および幼児期の子どもと音・ひびきとの関わりについて専門的理解を深める学修となることを期待します。また、学生自らが体験する質の高い音楽芸術をとおして、子どもを保育するにあたり、細やかな配慮、調和能力、伸びやかな声、リズムのある言動、そして、落ち着いた雰囲気・態度を培うことを期待します。特に、社会における人と人、人と音をつなぐ役割を果たせる能力を養うことを期待します。

■学位授与の基準

卒業時に以下の資質を有することを目標として、所定の単位を修めた学生は卒業が認定され、学士（音楽）の学位が授与されます。

- ・保育者としての使命感と誇りをもち、自己の心身の健康を維持しながら、自己を省み、向上させる態度を身に附けています。子どもと子どもを取り巻く音・音楽文化について絶えず関心をもち、子どもの援助に関する基礎的理解力と応用実践力を有している。
- ・保育の現場において、同僚の教職員をはじめとする他者とコミュニケーションをとりながら、組織の一員として活躍できる能力を持つ。

音楽文化学科 音楽コミュニケーションデザイン専修

【アドミッション・ポリシー】

■音楽コミュニケーションデザイン専修の目的

音楽コミュニケーションデザイン専修は、音楽の基礎力をもとに、応用音楽学と心理学領域からのアプローチにより、繊細な感受性と豊かなコミュニケーション力、柔軟な人間理解の視点を身につけ、音楽産業、メディア、教育、医療、福祉機関など、広く社会で文化的貢献ができるクリエイティブな人材を養成することを目的としています。そのため、多様な経験・目的意識を持った学生に広く門戸を開いています。

■求める学生像

上記の目的に沿って、以下のような学生を求めます。

- ・現代社会の人間の行動と心に対する洞察を深め、自ら考え行動しようとする意欲の高い人。
- ・音楽文化について関心をもち、英語力を身につけることに積極的な人。

【カリキュラム・ポリシー】

■指導・研究の体制

音楽コミュニケーションデザイン専修では、応用音楽学およびアート・マネジメント関連領域、心理学領域の専門教員による講義と演習を中心としています。学生が幅広い教養と人間力を持って社会に出ていけるよう、音楽の基礎能力や専門領域の指導に加え、分野を超えて幅広く関心ある科目を履修することができ、総合的な文化形成の視点を養うことができるようになっています。また、専門を異にする複数の教員が同一科目に関わる、学際的な教育体制をとっています。

■教育内容および教育方法の特色

知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、社会生活における汎用的な能力を育成するために、研究や討論、実践を多面的に積みあげる演習型の少人数授業を実施しています。習得した知識やスキル、音楽体験の精神的効果に対する理解力や方法論などを統合し、新たな文化創造につながる環境を大切にした、丁寧な個別指導を行っています。

学生時代における自己確立とキャリア探求の基礎形成として、初年度より、実践的な社会連携プログラムを展開しています。

【ディプロマ・ポリシー】

■卒業時までに期待する学修の内容

現代の音楽文化を支える社会構造の基礎概念、音楽文化・芸術の本質や多様性、成立原理などの理解を深め、音楽の社会的機能と課題を理解し、適切に情報・環境を読み解き、新たな音楽環境を創生するような総合的能力（行動力・思考力・コミュニケーション能力）の習得が到達目標として望まれます。

同時に、音楽と人間との関わりを心理学的な視点から探求しようとする姿勢を持ち、基本的な心理学の知識を身につけるとともに、音楽活動における精神の癒しと活性の原理を、実践の場で活かすことができるようになることを期待します。

■学位授与の基準

卒業時に以下の資質を有することを目標として、所定の単位を修めた学生は卒業が認定され、学士（音楽）の学位が授与されます。

- ・音楽文化に関する広い専門的知識と理解力、実践力を持っていること。
- ・また、これらの幅広い知識とコミュニケーション能力を踏まえて、柔軟な思考力と適切な行動、表現力を身につけていること。

演奏学科 声楽専攻

【アドミッション・ポリシー】

■声楽専攻の目的

自らの持つ「声」という楽器を用いて、音楽と詩の融合から生まれる愛と感動を伝えることのできる声楽家、そして指導者となることを目的とします。

■求める学生像

上記の目的に沿って、以下のような学生を求めます。

- ・音楽全般、特に「歌」を愛する心を持ち、基礎的なソルフェージュ能力を備えた人。
- ・将来の演奏のための技術を磨くための努力を惜しまず、情熱を持って音楽芸術への道を極め続けることができる人。
- ・音楽する喜びをとおして「協働」するためのコミュニケーション能力を持つ人。

【カリキュラム・ポリシー】

■研究・指導の体制

- ・各国語での演奏や文化に精通した声楽教員を配置し、指導にあたります。
- ・室内楽アンサンブルやオペラの授業では、音楽する喜びをともに経験し、協力することにより社会性、協調性を育てます。

■教育内容および教育方法の特色

○教養学科目

「人間学」をとおして、キリスト教、東洋思想（仏教、神道、儒教）、瞑想、ヨガから精神性を学びます。「語学」を学ぶことにより、その言語が話される国の文化を知り、歌うために必要なディクションとコミュニケーション能力を培います。

○関連学科目

西洋音楽の基本となるグレゴリオ聖歌とポリフォニーを「宗教音楽」で習得、更に演奏の裏づけとなる「音楽史」、「音楽理論」などを履修します。

○主要学科目

個人指導の「声楽研究」を軸に「室内楽」「歌曲研究」でレパートリーの充実を図り、「合唱」と「オペラ研究」で、学生同士が協働する力を育て、ともに芸術作品を作ること、更には演奏を支える舞台裏について知り体験することができます。3年次にはセシリニアホールでの「学内演奏」で声楽研究の成果を発表し、「卒業演奏」では4年間の研究とレパートリーの総まとめとしての発表を行います。

【ディプロマ・ポリシー】

■卒業時までに期待する学修の内容

声楽家、指導者として必要な声楽の技術を土台に、音楽芸術を愛する心とそれを人に伝えようとする「他者のために生きる」というキリスト教的な精神性を持つ人となることを期待します。

■学位授与の基準

4年間、真摯に音楽、特に「歌」と向き合い、その真の喜びを体験し、所定の単位を修めた学生は卒業が認定され、学士（音楽）の学位が授与されます。

演奏学科 鍵盤楽器専攻

【アドミッション・ポリシー】

■鍵盤楽器専攻の目的

バロックから現代に至るまで幅広い時代の鍵盤楽器楽曲を、奏法研究、曲の成り立ち、その社会的背景などの観点から多角的に研究することにより幅広い視野を持って音楽を深く掘りさげ、将来の演奏家、指導者として社会に貢献できる豊かな教養のある人材を育てることを目的とします。

■求める学生像

上記の目的に沿って、以下のような学生を求めます。

- ・バロックから現代に至るまでの作品に積極的に取り組み続けることができる人。
- ・意欲的な探究心を持ち、受け身でなく自ら求める積極性のある人。
- ・演奏のみに固執するのではなく、幅広い教養と人間的成長を求める意欲を持つ人。

【カリキュラム・ポリシー】

■研究・指導の体制

入学までに個々に培われた実力を再確認し、カテゴリー制をとおして、基礎力の強化も含め、各能力の更なる向上を目指して徹底した個人指導を行っていきます。

■教育内容および教育方法の特色

○教養学科目

人間性および一般教養力を培うための授業科目を配しています。

○関連学科目

「〈音楽家の耳〉 トレーニング」など基礎能力の重要性を認識し確実な音楽力をつける授業を行っています。

○主要学科目

- ・演奏家・指導者、ともに優れた音楽家を育てるために、「鍵盤楽器奏法研究」、「ピアノ指導法」、「伴奏法」、「アンサンブル」などの科目を配しています。
- ・実技はマンツーマンによる指導で、教員との相談のもと各自のペースで学修が進められるようカテゴリー制をとっています
- ・学内演奏会ではセシリアホール（大ホール）における演奏経験を積み、卒業演奏試験時にはセシリアホールにおいて4年間の集大成の演奏ができる目標としています。
- ・定期演奏会のオーディション（協奏曲）やエリザベトコンサート（室内楽）など、学内オーディションの機会も豊富にあります。

【ディプロマ・ポリシー】

■卒業時までに期待する学修の内容

生涯にわたり音楽と深く関わり自ら学び続ける姿勢を身につけ、音楽活動、または、それ以外の場においても豊かな人間性を發揮し、人・社会と深く関わっていく人材となることを望みます。

■学位授与の基準

卒業時に以下の資質を有することを目標として所定の単位を修めた学生は卒業が認定され、学士（音楽）の学位が授与されます。

- ・卒業演奏試験においては4年間の集大成に相応しい演奏がなされ、音楽家としての自負をしっかりと持っていること。
- ・真摯に音楽と向き合い、音楽の果たす役割を深く理解し、社会に貢献できる力を身につけていること。

演奏学科 管弦打楽器専攻

【アドミッション・ポリシー】

■管弦打楽器専攻の目的

芸術家として、演奏技術の向上のみならず、音楽全般の理解を深め、社会に貢献できる人材を育てることを目的とします。

■求める学生像

上記の目的に沿って、以下のような学生を求めます。

- ・音楽を愛し、自分の夢と可能性を信じ諦めない人。
- ・演奏技術のみならず、音楽に対する興味、関心を持ち、様々な時代様式の音楽に積極的に取り組む人。
- ・自らの能力を高めるための忍耐力と熱意を持つ人。

【カリキュラム・ポリシー】

■研究・指導の体制

- ・第一線で活躍している教員を配置し、演奏技術、表現力を高めるため、専門性の高い、きめ細やかな個人指導を行います。
- ・合奏の授業をとおして、社会活動に繋がる積極性、協調性を育てます。

■教育内容および教育方法の特色

- ・オーケストラ・吹奏楽・弦楽アンサンブル・管楽アンサンブル等の演奏会による演奏実践。
- ・プロフェッショナルな楽団へのインターナシップ。
- ・国内外の著名な演奏家によるマスタークラス等の講習会の開催及び受講。
- ・国外における演奏実習、講習会への参加で国際的感覚の修得。
- ・中学生、高校生への指導実習。

【ディプロマ・ポリシー】

■卒業時までに期待する学修の内容

芸術家としての使命感と誇りを持ち、なおかつ専門家の自覚を持って、社会貢献できる人材となっていることを期待します。

■学位授与の基準

卒業時に以下の資質を有することを目標として、所定の単位を修めた学生は卒業が認定され、学士（音楽）の学位が授与されます。

- ・音楽を愛し、演奏家としての使命感と誇りを持ち、絶え間ない探究心を有している。
- ・演奏家としてのみならず、指導者としての立場で社会に貢献する意思と能力を有している。
- ・様々な現場において、社会人としての協調性を有している。